

海洋プラスチックごみアートで市民啓発

神戸市環境局環境創造課

1. はじめに

神戸市では海洋プラスチックごみ問題に多くの市民に関心をもってもらい、身近なところからの取り組みにつなげるため、令和2年度から「海洋プラスチックごみアート」による啓発活動に取り組んでいます。今までに制作したアートと、今年度から始める新たな取り組みについて紹介します。

2. 今までに制作したアートたち

2.1 令和2年度「ブラガメ」

神戸市内の海岸で集めたプラスチックごみなどを用いて、地元の高校生やアーティストが共同で制作した、ウミガメをモチーフとした作品です。

当初は名前のなかったアートでしたが、市民の投票で「ブラガメ」という愛称がつけられました。

背中や頭の模様はペットボトルのキャップでできていますが、いったい何個使ったかわかりますか？ 現在、「ふたば資源回収ステーション」(神戸市長田区)で展示していますので、数えに来てください。



写真1 ブラガメ

2.2 令和3年度「プラごみ水族館」

カラフルで可愛い作品ですが、これも海洋プラスチックごみアートです。

神戸市内の海岸で拾い集めたプラスチックごみを使用し、アートユニット「マキコムズ」の協力を得て、水族館をイメージして制作されました。

使われているプラスチックはいつさい着色なし。ごみの色そのままです。これだけカラフルな材料(プラスチックごみ)が、海で簡単に集められることに、驚くとともに、悲しさも感じます。

魚の周りに飾られている小さな「海の生き物たち」も海で集めたプラスチックを使って、市民参加のワークショップで作成したものです。

現在はコミスタ神戸(神戸市中央区)で展示中です。



写真2 プラごみ水族館

2. 3 令和4年度「プラノザウルス」

「もし、海のプラスチックごみから突然変異して生まれた恐竜が神戸に現れたらどうする？」という発想から、神戸の海に漂着したプラスチックごみや流木を市民の協力で集め、アートユニット TEAM ONDO(チームオンド)が制作したアート作品です。

高さは2m以上、上半身から尻尾までの長さは4m以上という巨大さで、展示中は立ち止まって写真を撮る人が続出。

また、顔の左右で違う表情を見せるなど、見る人によって色々な受け止め方ができるような工夫もしています。(写真4)

この作品は小さなものから大きなものまで、様々な海洋プラスチックごみがそのままの形で使われているので、じっくり見ると「こんなものが捨てられてたんだ！」という発見と驚きがあります。

ちなみに、プラノザウルスの牙は掃除機のノズル、背中のひだはビーチサンダルなどでできています。

現時点で、令和5年9月以降の展示場所は未定ですが、下記 GO GREEN KOBE 公式サイトで紹介していますのでご覧ください。

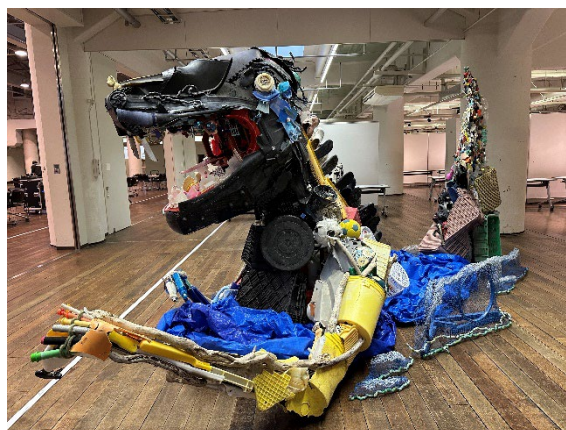


写真3 プラノザウルス



写真4 プラノザウルスの左右の表情

4. これからの取り組み

これまでの3年間はアーティストが企画し、市民が参加してごみ集めやアート制作をしてきましたが、今年度は、企画段階から市民を巻き込んだ取り組みを考えています。

具体的には、市民参加のワークショップを開催し、「どんなアートを作るか」「どのように展示すれば良いか」などの企画を考え、それを実践する予定です。

ワークショップ自体が学びの場となるほか、思いもつかない企画が出てくる可能性もあり、どんな展開になるか今からわくわくしています。ご期待ください。

【HP】

プラノザウルスの詳細や今後の展示予定などは GO GREEN KOBE 公式サイトで紹介しています。 <https://gogreenkobe.jp/>

